

令和3年度指定管理運営業務評価票

施設名称：府立江之子島文化芸術創造センター	指定管理者：長谷工コミュニティ・E-DESIGNプラットフォームグループ	指定期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日	所管課：府民文化部 文化・スポーツ室 文化課
-----------------------	--------------------------------------	--------------------------	------------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
I 提案の履行状況に関する項目	<p>(1) 施設の設置目的及び管理運営方針</p> <p>■センターが提示した施設の運営方針や活動方針に則り、enocoの存在感を高め、より多様で多くの人々に活用いただけるような施設の運営がなされているか。</p> <p>■enocoならではの場作りと運用に努め、主体的な創造活動と交流の機会を提供し、場の活性化がなされているか。</p> <p>■今年度の重点方針「現代美術の振興（府所蔵作品の活用）」「『協働の拠点づくり』の三本柱（“ネットワーク”“教育”“プラットフォーム”）の連携」に基づき、事業を展開させ、最終年度の総まとめとして、府民が文化芸術を享受し、日常的に創造的活動が行える社会基盤（文化的commons）としてのenocoを形成するとともに、更なる認知度向上、貸館利用率の向上を含む場の活性化に取り組み、誰もがenocoの空間や資源、ネットワークを活用し、多様な創造活動を展開できる拠点となる活動を実施しているか。</p> <p>■第2期（平成29年度からの5年間）の指定管理者期間満了年度に相応しい、次の10年、20年に向けて、新たな取り組みや挑戦が生み出される基盤づくりを行い、府内の文化活動の活性化を図るとともに、enocoが新たな文化芸術を生み出す拠点となることを目指した活動を実施しているか。</p> <p>【目標値】※（ ）内は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた場合の目標値</p> <p>◇来館者数延べ：97,000人（60,000人）</p> <p>◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数：680件（440件）</p> <p>◇enocoと創造的活動を協働した個人・団体等の数：180件（90件）</p>	<p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響により、休館を余儀なくされるなど、引き続き様々な面における活動が困難な状況下にあるが、運営方針と活動方針に基づく「ネットワーク」「教育」「プラットフォーム」をenocoの強みづくりの3本柱と位置付け、10年という節目に向けて以下の事業を実施してきた。</p> <p>「ネットワーク」</p> <p>➢「文化的commonsの形成と担い手の育成」という目標に向け、ネットワーク形成に取り組むとともに、これまでのネットワークを可視化できる取り組みを行ってきた。</p> <p>「教育」</p> <p>➢多様な世代・多様な関心を持つ府民が、enocoに集い、enocoの資源を活用しながら、主体的に創造活動に参画できる教育事業を実施してきた。</p> <p>「プラットフォーム」</p> <p>➢新型コロナの影響で中止や延期となる事業も発生しているものの、一部については、これまでの蓄積を活かした事業を展開してきた。</p> <p>▼重点項目について</p> <p>『交流・連携・協働拠点 enocoの確立』</p> <p>enocoが蓄積してきた人材とネットワークを活用し、事業の三本柱である「ネットワーク」「教育」「プラットフォーム」の各事業、そして大阪府20世紀美術コレクションの管理・活用事業を密接に連携させながら施設運営を推進することができた。また、実空間での事業展開に加え、オンラインでの展開についても取組んだ。</p> <p>その中で、enocoの空間/人材とネットワーク/コレクション/これまでの事業で培ってきた経験と知見などといった資源を、こどもから大人まで様々な人に向けてひらいてきた。そして府民やクリエイターが、自らのenocoの活用方法を見出し、enocoという場に主体的に関わり、創造活動を行ってきた。予想以上にコロナの影響が長引く中ではあるが、大阪における文化芸術活動の継続と発展、新たな挑戦を支える拠点としての役割を果たし、府民が日常的に創造的活動を行える社会基盤（文化的commons）を築いてきた。</p> <p>【実績 12月末現在】（ ）内の達成率は、新型コロナの影響を受けた場合の目標値に対する達成率</p> <p>◇来館者数延べ：55,179人 達成率56.9%（92.0%）</p> <p>◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数：411件 達成率60.4%（93.4%）</p> <p>◇enocoと創造的活動を協働した個人・団体等の数：174件 達成率96.7%（193.3%）</p> <p><参考 昨年度同時期実績></p> <p>◇来館者数延べ：45,747人 達成率30.5%（目標値：150,000人）</p> <p>◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数：301件 達成率33.8%（目標値：890件）</p> <p>◇enocoと創造的活動を協働した個人・団体等の数：51件 達成率20.0%（目標値：255件）</p>	S	<p>・昨年度に引続き今年度も新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響により、4月から6月の約2カ月間休館措置がとられた。新型コロナの影響を考慮し、定量評価のみではなく定性的な評価についても取入れて評価を行うが、新型コロナの影響があったなかでも、昨年度の対応経験などを踏まえ、新型コロナの影響を受けた場合の目標値の達成状況とともに、コロナ禍においても積極的な取り組みができたかについて評価を行うこととする。</p> <p>・今期の指定管理5年目（2期10年目）となる今年度は、現指定管理者による指定管理期間の最終年度であった。これまでに蓄積されてきたノウハウやネットワークを活用し、府立の文化施設として、大阪を中心とした関西圏におけるアーティストやクリエイター・府民・行政・企業・大学等の交流・連携・協働拠点、文化芸術と地域の資源や府民をつなぐ施設としての存在感を高め、より多様で多くの人々に活用していただけるような施設の運営となるような事業計画のもと、運営を行った。</p> <p>【実績 12月末現在】</p> <p>・閉館期間もあったが、新型コロナの影響を受けた場合の目標値は達成できる見込みである。</p>	A	<p>・芸術の団体や若手アーティストたちへの支援が、取組みとして具体的になり厚くなったと感じている。次期指定管理者にも取組みを引継いでもらいたい。</p> <p>・指定管理者が、築いたネットワークは素晴らしいと思う。次期指定管理者にもネットワークづくりを頑張ってもらいたい。</p> <p>・目標値に関して、もし次年度新型コロナが収束した場合に、実績の数値にあまり変化がないということになると、新型コロナに影響されているのではなく、参加者や関係者の属性が固定されている可能性があるため、実情に合う形で次年度の目標値設定を検討してほしい。</p> <p>・これまでのenocoを引継ぐということではなく、文化課と次期指定管理者とで、新たなenocoの運営について考えてほしい。</p> <p>・格差が開いてきた世の中では、社会教育施設の役割が、豊かな国を代表する芸術文化の専門施設ではなく、もう少し今の社会状況に見合った施設のあり方がある。</p> <p>・利用者のウェルビーイング（※）、指定管理者（運営する側）のウェルビーイング、施設設置主体者のウェルビーイングを考えながら、これからの運営を行ってほしい。</p> <p>（※ウェルビーイング：well-being 直訳すると「幸福」「健康」。心身と社会的に良好である状態であり、よりよく生きる。という意味で使われる）</p>

<p>(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果</p>	<p>■高齢者、障がい者等に対する利用援助が適切になされているか。</p>	<p>各種研修を実施して職員の知識と意識を高め、高齢者や障がい者等、府民の誰もが安心して気持ちよく利用できるよう、ホスピタリティを意識した接遇に努めている。</p>	<p>A</p>	<p>・館内での要配慮者への対応はもとより、ホームページやその他の広報媒体への障がい者等への配慮に関する記載がしっかりと定着してきた。</p>	<p>A</p>	
<p>(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>①協働の拠点づくりに関する業務 ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供 ■ネットワークの拡大に努めるとともに、形成されたネットワークを大阪に根付かせるための在り方を検討しているか。 ■新型コロナウイルス感染症禍（以下、コロナ禍）における文化芸術活動の在り方や事業推進方法等について情報を収集し、状況に応じて対応するとともに、情報発信を行っているか。</p>	<p>ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供 ◆「enoco のバンパク」 新型コロナの影響を受け、規模を縮小しての開催となった。また、「えのこ de マルシェ」についても、新型コロナの影響により、出店者の公募等を実施できず開催を断念せざるをえなかったが、約 12 時間にわたる生配信とそこで展開されるプログラムの中で、enoco の 3 本柱である各事業での取り組みの成果・培ってきたネットワークを可視化させることができた。（11 月 20 日実施） enoco の各事業で関わりのあった人々・団体からの「持ち寄り」企画も展開し、enoco の空間とノウハウを活かして、多くの人が創造活動を展開する機会となった。 また複数のチャンネルでの配信、オンラインチャットサービスを用いた視聴者・参加者との交流や、オンラインホワイトボードサービスを用いた情報提供なども行い、その他のオンライン事業実施にも活用できるノウハウを得た。</p>	<p>S</p>	<p>ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供 ・「enoco のバンパク」について、新型コロナの影響もあったなか、実施方法等を模索しながら、開催したことは評価できる。 ・各事業において、これまで 2 期/10 年間で培ったネットワークや enoco 各事業で関わりのあった人々との連携は、よくできていたが、各プログラムの内容が、やや専門的であったように感じられた。また、館内での観覧も可能であったが、関係者以外の参加者が少ないように感じられた。新型コロナが落ち着いている時期であったことから、もう少し来館者増を狙えるような工夫や、広報ができれば、なおよかった。</p>	<p>A</p>	<p>・子どもたちが自分でアート活動に参加し、来館していることは、とても大事なことです。家庭の環境や経済的な状況に関係なく芸術に触れ合えるというのは、とても素晴らしいことであり、重要なこと。その点が根付いたのは非常に良いことであり、次期指定管理者にも、ぜひ引継いでもらいたい。</p>
<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>イ 創造的な活動機会の創出等の支援 ■昨年度から 2 か年計画の「ぞくぞく・enoco の学校」を実施することで、enoco や地域へと自ら活動を展開することができる人材を育成できているか。 ■「こどもアート学科」では、子どもに多様な素材・表現・思考に触れる機会を提供できるメニューを実施しているか。</p> <p>ウ 相談窓口の設置 ■enoco で蓄積してきたノウハウやネットワークを府内の市町村や文化芸術関係者が活用できるよう、窓口の体制を強化するとともに、相談窓口事業の普及に努めているか。</p>	<p>プログラム詳細（一部） 《picnic チャンネル》総視聴数：658 ・「ぞくぞく・enoco の学校」ゼミ生によるプレゼンテーション ・これまでの事業（マルシェ・おしゃべりピクニック）に参画したパフォーマーによるパフォーマンス ・大阪府内の公立文化施設による中継リレートーク（主催：大阪アーツカウンシル） ・泉州アートサミット 2021 の開催（主催：泉州アートサミット実行委員会） ・enoco と関わりのあるゲストを招いてのトークシリーズ、リレートーク、クロストーク 《plays チャンネル》総視聴数：239 ・「なんだこれ?! サークル」に関するトーク ・オンライン対話型鑑賞会 ・enoco の空間を紹介するオンライン館内ツアー ・「ぞくぞく・enoco の学校」ゼミ生によるプレゼンテーション ・enoco と関わりのあるゲストを招いてのトークシリーズ ・凸凹ラジオの運営チーム（ポッセ）によるラジオ放送・ミニコンテンツなど 空間設計 NO ARCHITECTS 配信ディレクション 山城大督 (Twelve. Inc) グラフィックデザイン 鯨坂兼充 (SKKY / iTohen) イラストレーション 間芝勇輔 題字 マメイケダ 参画クリエイター・ゲスト・スタッフ数：約 80 名 ◆「円卓会議」：「enoco おしゃべりピクニック」と題したカジュアルなオンライントークを開催（8 月 視聴者数：34 人）。ここでのネットワークを「enoco のバンパク」でのコンテンツにも繋げた。ゲスト：いいむろなおき（マイム俳優/演出家/振付家）、田中秀彦（服飾造形/舞台演出/アートディレクション）、Asami Yasumoto（エアリアルパフォーマー）。また 1 月以降、ポッセによる企画を実施し、enoco を介してポッセとクリエイターがつながる機会をつくる。</p> <p>◎極東退屈道場 昨年度開催予定だったが、新型コロナの影響で今年度に延期となり、12 月に開催した。観客は enoco 内の階の異なる 2 つの空間（展示室）に分かれ、俳優が館内を移動しながら行うパフォーマンスをみるという公演。 公演回数：8 回 来場者数：344 名 【今後開催予定の事業】 ◆フォーラム「創造のテーブル 2022」（3 月）</p>		<p>・また、「円卓会議」：「enoco おしゃべりピクニック」についても、ゲストを迎えての取組みとなっており、いろいろなジャンルの方と交流ができる内容である。より多くの人に視聴していただけるように広報等の工夫がみられれば、より魅力的なコンテンツにすることができた。</p>		<p>・府民や、そこに暮らす人々に向き合いながら、様々なことを発信し続けなければならない立場の者には、次のミッションがあると思うので、これからも考え続けていってほしい。</p> <p>・これからは、体験の質感が以前とは全く違うものを求める人たちが増えるのではないかといいことを、意識して運営を行ってほしい。</p>

		<p>10周年を目前にした記念として「社会資本の変容」「文化的コモンズのアップデート」をテーマに、これまでの取り組みをベースに、未来を志向した対話と議論を展開する予定。</p> <p>◆Breaker Project との連携（3月上旬・共催） 西成を拠点に活動する Breaker Project によるフォーラムを開催予定（展覧会から変更）</p> <p>イ 創造的な活動機会の創出等の支援</p> <p>◆enoco の学校</p> <p>◎「ぞくぞく・enoco の学校～マスターコース～」 2013年より開講してきた「enoco の学校」の卒業生を対象に「実践的問題解決能力を身につける学び場」として「ぞくぞく・enoco の学校～マスターコース～」(2年連続受講)を開講。レクチャー型からゼミ型に移行し、デザイン・パブリック・アートの3つのゼミに分かれ、昨年度からプロジェクトや研究に取り組み、その成果を「enoco のバンパク」内で発表した。12月でカリキュラムは終了したが、一部のゼミについては年度末にも外部でイベントを開催予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインゼミ <p>師範：中脇健児（場とコトlab）・多田智美（Muesum） 「趣味こそ持続可能な社会活動の究極系」をテーマに、個人の好きを追求し一つの美学になるまで高め、社会に波及していくことを目指し、5名のゼミ生が個人研究と実践を重ねた。うち2名のゼミ生については、その成果をコラム化し、Webメディア「PaperC」にて発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックゼミ <p>師範：濱本庄太郎（enoco プラットフォーム部門） 家庭から出るブラごみでマイバックをつくるプロジェクトを立ち上げ。大阪の福祉施設から生まれたプロジェクト「poriff」の協力をあおぎ、ワークショッププログラムを考案。「enoco のバンパク」でワークショップの実践とプレゼンテーションを行った。また閑散とする冬のビーチの活性化にも取り組んでおり、年度末にビーチでのイベントを開催予定（受講生による主催イベントとして実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートゼミ <p>師範：山城大督（美術家） 「本との出会い」をテーマに移動図書館プロジェクトを考案。「enoco のバンパク」では、本を活用したインスタレーションを展開した。</p> <p>※今年度参加人数（全体）：15名（昨年度参加者数：19名）</p> <p>◎「こどもアート学科」 今年度は、「造形」コースと「しこう実験」コースを統合し、絵画・版画・造形・写真・映像の5つのプログラムを実施。講師は各分野で活躍する計5名のアーティストが務めた。</p> <p>また、今年度は新たな取り組みとして、大阪府の所蔵作品の中から参考となる美術作品を紹介し、そこから想像力を働かせて作品制作を行うプログラムとしている。多様な素材、アーティスト、コレクションとの出会いを通して、こどもたちの表現力と創造力を引き出すことを目的の一つとした。</p> <p>そのうち、11月に開催した「身ぶり手ぶり。体をつかって写真で心をつたえよう」（講師：麥生田兵吾）では、こどもたちが制作した作品を、制作にあたって参考とした作品とともに展示するという、コレクション展と連動した企画を実施した（展覧会については後述）。</p> <p>なお、昨年度までは通年で受講生を募集していたが、少人数制のため参加枠の拡大を望む声が多く寄せられた。よって、今年度はより多くのこどもたちが参加できるよう各回での募集・午前/午後の二部制での開催に変更した。</p> <p>※今年度参加人数： ・10月～「5ヶ月の絵日記箱」（講師：野原 万里絵）：24名 ・10月「凹凸で描く木版画」（講師：桐月 沙樹）：21名 ・11月「身ぶり手ぶり。体をつかって写真で心をつたえよう」（講師：麥生田兵吾）：12名 (昨年度参加者数：造形コース 12名、 思考実験コース：こども9名、大人もしくは親子10組)</p> <p>◆enoco オープンアトリエ</p>	<p>イ 創造的な活動機会の創出等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぞくぞく・enoco の学校」については、昨年度から継続の受講生を対象にゼミ形式で実施された。受講生においては、コロナ禍でもオンライン等を活用したゼミメンバーでの自主的な学習活動などもみられ、本事業終了後も様々な場面での活躍が期待できる。 ・「こどもアート学科」については、今年度は参加者の募集条件を工夫するなどし、より多くのこどもたちが参加することができた。 ・また、大阪府所蔵作品を使用した事業内容であり、新たな取り組みとして評価できる。 ・「enoco オープンアトリエ」については、こどもから大人まで、誰でも気軽にアート体験ができる内容となっており評価できる。 ・「ポッセ」については、インターンを終了した学生や、インターンとして受入れた学生からの紹介者が、新たにポッセとして enoco の事業に関りをもっており、広がりがみられた。 ・「大学生等のインターンの受入れ」については、今年度は芸術系や教育系の学部以外の学生の参加があり、例年と異なった学部の学生にも enoco について関心を得られたことを示している。 ・また、インターン生やポッセによる「enoco オープンアトリエ」での参加者への対応は、こどもから大人まで様々な人が参加するなかで、しっかりと対応ができていた。特にこどもに対しては、それぞれのこどもの年齢に応じた対応が見受けられ、素晴らしかった。 	
--	--	--	--	--

			<p>4Fライブラリーを活用し、こどもから大人まで誰もが集える居場所づくりとして実施。これまでの「こどもアート学科」やアーティスト・コラボ・コレクション展で enoco の事業に関わってきたアーティスト・野原万里絵氏考案の額縁づくりのプログラムを展開し、無料で、誰もが創作できる場を形成した。運営にはインターン・学生ポッセが関わっており、さまざまな世代が交流する場ともなっている。 (参加人数：大人 84人、こども 91人)</p> <p>◆ポッセ ・コロナの影響でポッセに広く参画を呼びかける事業の実施が叶わなかったが、「enoco のバンパク」において凸凹ラジオチームが放送を行い、約1年半ぶりの活動を行うことができた。 ・インターン活動を終了した学生1名がポッセとして活動を続けた。またインターン生からの紹介で1名が学生ポッセとして事業に参画した。</p> <p>◆大学生等のインターンの受け入れ ・インターン4名を受け入れた。(大阪成蹊大学経営学部1名、大阪成蹊大学芸術学部2名、京都芸術大学アートプロデュース学科1名)。今年度は文化芸術事業に関心のある芸術系以外の学部在籍する学生を受け入れ、芸術系学部の学生とも交流・意見交換などを行なうことができた。</p> <p>【今後開催予定の事業】 ◆「ぞくぞく enoco の学校～マスターコース」 3月に全体での修了式を実施</p> <p>◆「こどもアート学科」 1月「布で絵を描く」(講師：佃 七緒) 2月「影をえがいてみよう」(講師：林 勇気) 3月作品展</p> <p>ウ 相談窓口の設置 ◆「eno so done!」 ・コロナの影響も鑑み、今年度より月1回の窓口開設ではなく随時対応とし、相談方法も対面・オンライン・電話の選択制としている。</p> <p>◎相談件数(12月末時点)：6件 大阪市立大領中学校、公益財団法人芳泉文化財団、大阪西税務署、野村不動産株式会社西日本支社、個人(クリエイター)、公益財団法人花と緑の博覧会記念協会 ※ヒアリング対応：3件(パーソルエクセルHRパートナーズ株式会社、一般社団法人HAPS、大阪市文化課)</p>		<p>ウ 相談窓口の設置 ・随時対応や、相談方法の選択性など、利用者の利便性を高める対応ができています。</p>		
I 提案の履行状況に	<p>②フリースペース、ライブラリー兼休憩室等の利活用に関する業務</p> <p>■コロナ禍においても、感染予防対策をとりながら、府民が安心して利用できる空間として運用されているか。</p> <p>■フリースペースの魅力高めるコンテンツを実施しているか。</p>	<p>・新型コロナの影響で、カフェを活用したイベント開催等を自粛しているが、カフェメニューのリニューアルを7月に行い、食事メニューを充実させるなど、来館者のニーズにあわせた柔軟な対応を行なっている。また、ゴールドステッカー認証を得るなど、感染予防対策をとりながら運営を行なっている。近隣住民の利用も増えるなど、カフェを目標に来館する人も増加している。 ・4Fライブラリーにて「enoco オープンアトリエ」(前述)を行い、誰もが集える居場所として活用している。 ・エントランススペースをコレクションの常設展示場所として10月から運用を開始。気軽にコレクションの魅力に触れることのできるスペースとして活用している。</p>	A		<p>・カフェについては、新型コロナ対策をとりながら、運営できている。近隣住民の利用についても定着してきている。</p> <p>・多目的ルームを利用せず、ライブラリーで事業を実施することで、貸館収入を減らすことなく、主催事業を行う工夫がされている。</p> <p>・コレクションギャラリーとして、これまで実施できていなかった常設展示を実施することができた。</p>	A	
	<p>③美術コレクションの管理・活用に関する業務</p> <p>■美術コレクションの館内外における展示や貸出し等、積極的な活用を行っているか。</p> <p>■enocoのエントランスや展示室等で年間を通して、作品を展示し、定期的に展示替えを</p>	<p>コロナの影響で事業計画を一部変更せざるを得ない状況ではあるが、より多くの人々が様々な方法でコレクションにアクセスし、その魅力に触れることができるプログラムを展開している。</p> <p>【美術コレクションの保管】 保管する美術コレクションに保険をかけ、適切な保管・管理に努めている。美術コレクションの内容に精通した学芸員を2名配置している。</p>	S		<p>【美術コレクションの保管】 ・保管については、収蔵庫等で適切に管理ができている。次期指定管理者が引続き適切に管理が出来るように、確実に引継いでいただきたい。</p>	A	<p>・子どもたちが自分でアート活動に参加し、来館していることは、とても大事なことです。家庭の環境や経済的な状況に関係なく芸術に触れ合えるというのは、とても素晴らしいことであり、重要なことです。その点が根付いたのは非常に良いことであり、次</p>

<p>関する項目</p>	<p>行い、多彩なコレクションの周知、新たな手法なども取入れ、例えばこれまで展示されていなかった作品の展示・公開など、府民がより多くの美術作品に触れる機会を創出しているか。</p> <p>■「enoco コレクション・キャラバン」の成果をまとめたハンドブック（PDF データ等）を作成する。また、鑑賞教育の在り方検討等、今後、教育現場や文化施設等で活用してもらうことを見据えた活動ができていますか。</p> <p>■収蔵作品を適切に管理しているか。</p> <p>【目標値】</p> <p>◇作品活用点数：1,000 点</p> <p>◇企画展：2 回／年</p> <p>◇enoco 館内での定期的な展示</p>	<p>【美術コレクションの展示】</p> <p>◆「彼我の絵鑑」展（3 月 30 日～4 月 24 日/6 月 22 日～7 月 3 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府コレクションの活用と展示の可能性を探ることを目的に、気鋭のアーティストを招聘し、作家独自の視点と感性でコレクションを選定。作家の作品と選定された作品をともに配置する展覧会。大阪在住の画家・野原万里絵を招聘。令和 2 年度事業として昨年度末から本年度 5 月 1 日までの予定で開催したが、緊急事態宣言等による休館で会期を短縮することになった。繰り返し訪れていた近隣住民を含め、再開を望む声が多く、6 月下旬の開館後に会期を延長して対応した。 ・展覧会の関連イベントとして、アーティストトークの動画の収録・配信を行った（ゲスト：大槻晃実 / 芦屋市立美術博物館 学芸員）（視聴者数：人）※12 月末時点数値記入 ・近隣の子どもたちが日々訪れ、作品の模写をするなど、コレクションに親しむ機会となった。 <p>※会期中の総来場者数：1,108 名</p> <p>※コレクション作品展示数：44 点</p> <p>◆「大阪府 20 世紀美術コレクションと小さき巨匠たち 展覧会をつくる展覧会」— こどもアート学科 2021「身ぶり手ぶり。体をつかって写真で心をつたえよう」連動企画— 展（11 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度から 3 回に渡り開催してきたアーティストコラボ・コレクション展と、同じく 2018 年度から実施してきた小学生対象のアートプログラム「こどもアート学科」の実績を活かし、新たに子どもたちを“小さき巨匠たち”として招き入れる、子どもたちを主役としたアーティストコラボ・コレクション展。 ・「こどもアート学科」（前述）と連動しての実施で、講師として 2019 年度アーティストコラボ・コレクション展の招聘作家でもある写真家の麥生田兵吾を迎えた。プログラムに参加する子どもたちが、コレクションから作品を選び、自分の身体を使って、コレクションから感じたことなどを表現。それを展覧会場内の特設スタジオで撮影し、小さき巨匠による作品としてコレクションとともに展示し、子どもたちの表現力・創造力によってコレクションの魅力を引き出す機会ともなった。 ・来館者にもボラロイドカメラで身体を使った作品制作を体験いただける仕組みを展開。展覧会を鑑賞・享受するだけでなく、そこに参加できる機会を創出した。 <p>※来場者数：528 人</p> <p>※コレクション作品展示数：24 点</p> <p>※小さき巨匠作品展示数：24 点</p> <p>◆8 月に開催を予定していた「花博写真美術館」展については年度当初より企画を進めていたが、休館ならびに緊急事態宣言発出期間の長期化を受け、開催を断念した。</p> <p>◆「enoco コレクションキャラバン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内の学校への出張展示・対話型鑑賞プログラムについては、新型コロナ感染拡大防止の観点から、実施を見送った。 <p>◎オンラインでの対話型鑑賞プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度「コレクション・キャラバン」実施校である大阪教育大学附属支援 	<p>【美術コレクションの展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響や、閉館期間中の収入が減少したことで、中止となった展覧会もあったが、新型コロナ対策をとりながら、11 月に enoco 主催の展覧会を開催することができた。 ・昨年度事業である「彼我の絵鑑」展は、今年度も引き続き開催した。新型コロナの影響で、休館となり、一旦は会期が短縮されたが、休館期間終了後に展覧会も再開するなど、柔軟な対応ができた。 ・「展覧会をつくる展覧会」では、「こどもアート学科」と連動する企画も実施できた。 ・「enoco コレクションキャラバン」については、昨年度に続き、いくつかの学校等とオンラインでの対話型鑑賞会ができた。 ・また、参加学校 2 校と同時にオンラインを活用し、3 者で対話型鑑賞を行ない、普段接点のない子ども同士が同時に対話型鑑賞を体験することができた。 ・コレクションキャラバンハンドブックについては、事業計画の段階で、発行月をもっと早くに設定し、発行後に関係各所への普及や質問等を受ける期間を設ける必要があった。所管課としても、今年度事業計画受領時にその点について、指定管理者と協議する必要があったが、できていなかった。 ・コレクションギャラリーとして、これまで実施できていなかった常設展示を実施することができた。 <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインコンテンツについては、過去の展覧会の様子のバーチャル背景のアップや、府所蔵作品作家によるアーティストトークの配信など、新たなことに取組むことができた。 ・昨年度、主催した展覧会「岩宮武二のまなざし」の作家「岩宮武二」の作品について、外部との連携による巡回展示が企画されていることは、非常に素晴らしいことである。enoco や府所蔵作品について府外へもアピールする好機であるので、次期指定管理者へ確実に引継いでもらいたい。 ・ニューズレター vol.24 では、府所蔵作品に焦点を当てた内容となっており、所蔵作品についてアピールできる内容となった。 	<p>期指定管理者にも、ぜひ引継いでもらいたい。（再掲）</p>
--------------	---	---	---	----------------------------------

		<p>学校と連携し、定期的に鑑賞授業を開催している。また、支援学校と大阪市立田辺小学校のオンライン交流プログラムとして鑑賞会を実施（9月）。2つの学校をオンラインでつなぎ、作品鑑賞と対話を通じたこどもたちの交流の機会をつくった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「enoco のバンパク」においてオンライン鑑賞会を実施。自身で対話型鑑賞に取り組んでいる方が遠方から参加するなど、enoco の取り組みの周知が進んでいる。 ・和泉市立青葉はつが野小学校においてオンライン鑑賞会を実施（12月） <p>◎教職員・研究者との連携</p> <p>enoco の対話型鑑賞の取り組みの経験を活かして、実践者等のサポートを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪教育大学附属支援学校の教員による、対話型鑑賞授業に関する学習評価に関する研究への協力を行っている。 ・教育現場において対話型鑑賞授業を実践する際の課題や情報の共有を目的とした、教員間でのオンライン勉強会を実施（10月）。大阪教育大学附属支援学校、大阪市立水都国際中学校・高校、大阪市立本田小学校等の教員有志が参加し、情報交換やディスカッションを行った。 ・幼児教育を専門とする大阪成蹊短期大学の教員・研究者と連携し、こみち幼稚園にて幼児を対象とする対話型鑑賞と描画（模写）の実践を行い、課題や成果の抽出を試みた。 <p>◎ハンドブックの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「コレクションキャラバン」の取り組み実績やノウハウ、また今年度進めている教員等との連携の成果を活かし、enoco のコレクション活用における対話型鑑賞をまとめたハンドブック作成を進めている（3月発行予定）。 <p>◆コレクションギャラリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランススペースを小さな常設展示スペースとして活用している（10月～）。「こどもアート学科」のプログラムにおいてこどもたちのお手本となるコレクションを展示するほか、約1ヶ月ごとに展示入れ替えを行う。繰り返しenocoを訪れる楽しみをつくりだすとともに、多彩なコレクションを紹介し、コレクションに親しんでもらう機会を提供している。 <p>◆オンラインコンテンツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に開催したコレクション展の風景（壁面）写真を活用し、バーチャル背景画像として配布（配布にあたっては著作権者の承諾を得ている）。 ・「彼我の絵鑑展」のアーティストトーク動画を収録・公開（前述）。 ・咲洲庁舎に常設展示されている井上廣子《封印された布貌》のアーティストインタビュー動画を制作（協力：大阪アーツカウンシル）。コロナ禍におけるアーティストの生の声を記録するとともに、咲洲庁舎におけるコレクションの常設展示の周知にもつなげた。11/20 から公開。視聴数：145回（12月末時点） <p>◆岩宮武二展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に開催し好評を博した「岩宮武二のまなざし」展の、次年度以降の巡回展示に向けた企画立案や諸調整を進めている。 <p>◆その他</p>				
--	--	--	--	--	--	--

		<p>・ニューズレターvol.24にてコレクション特集を行い、コレクションを継いでいくこと・広く公開すること、双方の観点から、enocoの事業を紹介した。</p> <p>【今後開催予定の事業】</p> <p>◆3月「コレクションキャラバン」ハンドブックの発行</p> <p>【美術コレクションの貸出し】</p> <p>・江之子島の日本生命病院において、コレクションを常時展示。※コレクション作品展示数：常時2点（年4回展示替え）</p> <p>・ANA 大阪国際空港（伊丹空港）にコレクションを常時展示</p> <p>※コレクション作品展示数：6点（年2回展示替え）</p> <p>・大阪国際がんセンターと連携し、「アートな病院プロジェクト」と位置づけ、院内における美術コレクションの管理や掛け替え、案内パンフレットの制作等を実施。がんセンターの要望にきめ細かに応えることで、貸出の長期継続化に努めている。</p> <p>※コレクション作品展示数：106点（年度末に約55点の展示替えを予定）</p> <p>・新規貸出件数：1件（堺市）</p> <p>・また、次年度以降に向けた貸し出し依頼についても、すでに複数の借受先との諸調整を進めている（いずれも新規貸出先）</p> <p>【作品状態チェック、清掃業務】</p> <p>・コレクション展や新規貸出の際に額やガラス等の状態を確認し、必要に応じ新規額、アクリルに交換する等の対応を行っている。</p> <p>・モノレール美術館および万博記念公園設置作品の作品状態チェック、清掃業務については年1回行い、維持管理に努めている。</p> <p>・長期貸出作品の状態確認を実施</p> <p>・外部貸出作品の修復対応も行っている。</p> <p>【実績 12月末時点】</p> <p>◇作品活用点数：716点 達成率 71.6%</p> <p>◇中規模以上の企画展：1回 達成率 50%</p> <p>（昨年度から継続し、今年度も実施した企画展：1回）</p> <p><参考 昨年度同時期実績></p> <p>◇作品活用点数：865点 達成率 86.5% （目標値：1,000点）</p> <p>◇中規模以上の企画展：2回 達成率 66.7% （目標値：3回）</p> <p>【今年度末までの活用予定】</p> <p>◇がんセンター、岩宮展動画、こどもアート学科など 282点活用予定</p>		<p>【美術コレクションの貸出し】</p> <p>・近隣地区での連携という視点からも、隣接する日本生命病院への貸出し継続は、重要なものであり評価できる。</p> <p>・定期的な入替えが伴う貸出先については、作品にとってもよい環境であり、所蔵作品活用を推進できることから、今年度も継続して行えたことはよかった。</p> <p>・貸出し案件については、現状貸出中の案件、次年度の貸出案件ともに、次期指定管理者へ確実に引継いでいただきたい。</p> <p>【作品状態チェック、清掃業務】</p> <p>・長期貸出作品について、状態の確認を行い、記録を残した点は、評価できる。</p> <p>・主催展覧会の準備段階等で状態を確認した作品や新規貸出の際に確認した作品についても、昨年度までのものも含め、事業計画に明記されているように、必要に応じて記録を残し整理したうえで、次期の指定管理者に適切に引継いでいただきたい。</p> <p>【実績について】</p> <p>・新型コロナの影響で中止となった企画展もあったが、展覧会の動画配信等を活用することで、ほぼ目標を達成できる見込みである。</p> <p>・今年度の「こどもアート学科」では、府所蔵作品を活用した新しい取組みが実施されており、作品活用の一翼を担っていた。3月にこどもたちの作品発表を行うこととなっているが、その場にこどもたちが作品を制作するにあたり活用した府所蔵作品についてもこどもたちの作品とともに、一緒に展示が実現することを期待したい。</p>		
<p>(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p> <p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>④多目的ルームの利用の承認、その取消しその他利用に関する業務</p> <p>■多目的ルームの貸出しにあたり、多様なニーズに対応し、質の高いサービスの提供に努めているか。</p>	<p>【新規顧客の開拓】</p> <p>・展示室の貸出については、多様なニーズに対応し、新規の顧客開拓につなげるため、一昨年から「直前割引」「若年層割引」の運用を実施しており、若年層割引が昨年度より増加している。</p> <p>※直前割引：1件</p> <p>※若年層割引（25歳以下）：5件 ※昨年度1件</p>	A	<p>【新規顧客の開拓】</p> <p>・一昨年から取入れている「若年層割引」などを利用した学生が、自身の作品の発表の場として、enocoを利用している点は、評価できる。</p>	A	

	<p>■割引サービスなども含め、わかりやすい募集チラシの作成、発信や、SNS 広告等の活用等、戦略的な広報を行い、新規利用者の開拓を含め、幅広い層が利用できるよう促進に努めているか。</p> <p>■適正な減免の実施</p> <p>【目標値】</p> <p>◇多目的ルーム（1～4）：利用率 50%</p> <p>◇多目的ルーム（5～12）：利用率 60%</p>	<p>〔その他〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸館における利用料の減免については、館内に審査委員会を設置し、利用目的や内容を評価して厳正に審査を行った。 ※減免：全額 1 件、半額 2 件 ・シェアオフィスの利用率は 100%で推移している。 ・昨年度から延期になったコーポレートアートコレクション「なにわの企業が集めた絵画の物語展」を開催。報道関係者が多数 enoco に来館し、enoco の認知度向上にもつながった。 ・大阪市立美術館の利用停止の影響で、来期予約に関する問い合わせが多くなり、展示室予約方法を更新、機会の均等化に努めた。 ・大阪市助成金、文化庁補助金等の採択団体等による新規利用が数件あった。文化芸術活動を行う個人・団体への支援が施設の利用率向上にも寄与すると思われる。 ・「大阪文化芸術創出事業（活動支援）補助金」の施設登録も行った。実際の利用には繋がらなかったが、文化芸術関係者に向けて、周知を行うことができた。 <p>【実績 12 月末時点】</p> <p>◇多目的ルーム（1～4・展示室）：利用率 48.7%</p> <p>◇多目的ルーム（5～12・事務室等）：利用率 51.6%</p> <p>※参考：主催事業を含めた利用率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的ルーム（1～4・展示室）：利用率 62.3% ・多目的ルーム（5～12・事務室等）：利用率 54.4% <p>＜参考 昨年度同時期実績＞</p> <p>◇多目的ルーム（1～4・展示室）：利用率 27.5%（目標値：50%）</p> <p>◇多目的ルーム（5～12・事務室等）：利用率 53.5%（目標値：60%）</p> <p>主催事業を含めた利用率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的ルーム（1～4・展示室）：利用率 32.5% ・多目的ルーム（5～12・事務室等）：利用率 54.6% 		<p>〔その他〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸館における利用料の減免については、館内に審査委員会を設置し、利用目的や内容を評価して、不平等な取扱いがないように適切に運営している。 ・指定管理者の交代にあたり、利用者に混乱がないよう、適宜利用者への説明等が行われている。 ・状況に応じて、予約方法を更新する等、利用者の利便性や公平性を考慮した柔軟な対応ができています。 ・「大阪文化芸術創出事業（活動支援）補助金」の施設登録について、初期の段階で登録申請を行い、文化芸術関係者に向けて、当該補助金について周知等を行ったことは評価できる。 ・来年度当初からの貸館運営がスムーズに行われるよう、次期指定管理者へ適切に引継いでいただきたい。 <p>【実績 12 月末時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響が続くなか、昨年度よりも、特に展示室の利用率が伸びていることは評価できる。 		
	<p>⑤地域住民や江之子島まちづくり事業との連携・協働に関する業務</p> <p>■地域の社会活動等を連携・協働で進める体制の運営に努め、地域住民が集い、活動できる機会を創出しているか。</p>	<p>◆「えのこクラブ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度制作した「えのこクラブ」パンフレットを、周辺への活動周知等に活用した。 ・「えのこじまグルグル」は新型コロナ感染拡大防止のため、中止とした。 ・次年度は指定管理者が代わるため、その報告等について会議を 3 月末までに開催予定。 ・江之子島のまちびらきイベントは「えのこクラブ」でのヒアリングを受け、新型コロナの影響を鑑みて開催を見送った。 ・「えのこ de マルシェ」についても同様に新型コロナの影響を鑑みて開催を見送った。 ・「彼我の絵鑑」展では、近隣に住む子どもたちがリピーターとして毎日来館。配布しているブックレットの自由記入のページ等を活用して模写などを行った。また、子どもたち自ら手描きのチラシを作成し、通りがかる人たちに配布するなどキッズスタッフとしても活躍してくれた。 ・上記を受け、enoco が子どもなどの居場所となるべく、「enoco オープンアトリエ」を実施。は近隣の子どもや親子が繰り返し訪れ、enoco が地域の人々にとって、気軽に訪れることのできるひらかれた施設になってきている。「子ども 110 番」への登録申請も行っており、子どもたちが安心して駆け込むことのできる施設として地域に定着することを目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「えのこクラブ」関連の事業については、新型コロナの影響により中止になったが、新型コロナ収束後も引続き enoco が、周辺地域と連携ができるようにえのこクラブへの説明とともに、次期指定管理者への引継ぎも行っていただきたい。 ・enoco が近隣の子どもたちにとって、気軽に訪れることができる施設になったことは評価できる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分でアート活動に参加し、来館していることは、とても大事なことです。家庭の環境や経済的な状況に関係なく芸術に触れ合えるというのは、とても素晴らしいことであり、重要なこと。その点が根付いたのは非常に良いことであり、次期指定管理者にも、ぜひ引継いでもらいたい。（再掲）
	<p>⑥自主事業の実施</p> <p>■enoco の収益性を高め、より充実した施設運</p>	<p>【外部資金によるプラットフォーム形成支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去からの「プラットフォーム形成支援事業」の実績・ノウハウを活かし、引き続き、自主事業として実施。（主な事業の例） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実績やノウハウを活かし、コロナ禍においても、できる範囲で実施に努めている。 ・大阪国際がんセンターの案件では、府の所蔵作品も 	A	

		<p>営を可能とする財源の確保に努めているか。</p> <p>■相談事業（eno so done）等と連携して、社会課題解決事業に取り組み、その成果や課題をPRしているか。</p> <p>■その手法等の啓発や担い手の育成等、今後につながるネットワークの形成ができてきているか。</p>	<p>◆令和3年度 大阪国際がんセンター 絵画の展示及び管理方法等の監修業務（大阪国際がんセンター）</p> <p>◆大阪北摂霊園販売促進プラットフォーム型ワークショップ企画・運営検討業務委託（公益財団法人大阪府都市整備推進センター）</p> <p>◆「泉州アートサミット2021」</p> <p>昨年度開催予定が今年度に延期。泉南市で実施予定だったが、新型コロナの影響を鑑み、「enocoのバンパク」内にてオンライン配信で開催した。</p> <p>【その他】</p> <p>・デザインやアートとまちづくりをつなぐプラットフォーム形成に関する事業実施を目的とした「特定非営利活動法人 Be Creative」を設立した。</p>		<p>活用されている。作品活用の面からも、その手法等について次期指定管理者への引継ぎを行っていただきたい。</p>		
	<p>⑦適切な広報の実施</p> <p>■enocoのコンテンツやデータなどの新たな手法を最大限に活用し、認知度向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>■事業ごとにより効果的な手法を活用し、広報を行っているか。SNSについては、ユーザー層を鑑みた内容の充実や適切な頻度での更新が行われ、フォロワー数の増加が図られているか。</p> <p>■誰にでもわかりやすい言葉を用いた広報に努めているか。</p> <p>【目標値】※（ ）内は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた場合の目標値</p> <p>◇WEBサイト全体の総セッション数：80,000回／年（75,000回）</p> <p>◇メールニュース配信者数：2,500件（者）（2,400件（者））</p> <p>◇SNS（Facebook）のフォロワー数：3,500件（者）</p> <p>◇メディア（WEB等含む）掲載数：120媒体以上／年（65媒体）</p>	<p>・事業実施の際、ターゲットを絞ったSNS広告等も活用している。しかしながら人員配置・予算の問題で、広報専門の担当者が引き続き不在であるため、発信頻度不足や館全体のブランディング、広報戦略の立案などができていないことは課題として残っている。</p> <p>◆ニュースレターvol.24の発行（8月）</p> <p>➢特集：「20世紀美術コレクション」 表紙・特集担当デザイナー：塩谷啓悟</p> <p>◆ニュースレターvol.25の発行（1月）</p> <p>表紙担当クリエイター：タダユキヒロ 最終号となるため特集ページの代替として、ニュースレター公式キャラクターであるエノケンに焦点をあて、enocoの日常風景をエノケン目線で紹介する漫画を掲載。</p> <p>◆バーチャル背景（前述）</p> <p>・過去に開催したコレクション展の風景（壁面）写真を活用し、バーチャル背景画像として配布。画像には「enoco」のロゴを付すことで、コレクションだけでなくenoco自体の広報にもつながっている。</p> <p>【実績 12月末時点】（ ）内の達成率は、新型コロナの影響を受けた場合の目標値に対する達成率</p> <p>◇WEBサイト全体の総セッション数：43,152回／年 達成率53.9%（57.5%）</p> <p>◇メールニュース配信者数：2,298件（者） 達成率91.9%（95.7%）</p> <p>◇SNS（Facebook）のフォロワー数：3,434件（者） 達成率98.1%</p> <p>◇メディア（WEB等含む）掲載数：59媒体 達成率49.2%（90.8%）</p> <p>◇その他のツール</p> <p>Twitterフォロワー数：1,909件（者） Instagramフォロワー数：1,112件（者） Youtubeチャンネル登録数：78件（者）</p> <p>＜参考 昨年度同時期実績＞</p> <p>◇WEBサイト全体の総セッション数：58,237回／年 達成率64.6%（目標値：90,200回／年）</p> <p>◇メールニュース配信者数：2,352件（者） 達成率94.1%（目標値：2,500件（者））</p> <p>◇SNS（Facebook）のフォロワー数：3,161件（者） 達成率90.3%（目標値：3,500件（者））</p> <p>◇メディア（WEB等含む）掲載数：53媒体 達成率44.2%（目標値：120媒体以上）</p>	<p>A</p>	<p>・ニュースレターvol.24では、府所蔵作品に焦点を当てた内容となっており、所蔵作品についてアピールできる内容となった。【再掲】</p> <p>・バーチャル背景を使用し、府の所蔵作品を広報ツールとしても活用したことは評価できる。</p> <p>【実績 12月末現在】</p> <p>・WEBサイト全体のセッション数が、昨年度よりも減少したが、TwitterやInstagramなどのSNSツールを活用したことにより、WEBページを介さずにenoco事業の情報へアクセスしていることが考えられる。</p> <p>・目標値に達していない項目もあるが、その他の手法を活用し、世の中のニーズに沿った広報ができています。</p>	<p>A</p>		
<p>(5) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度</p>	<p>■センターの維持管理、安全管理、改修等が適格、迅速に実施されているか。</p> <p>■防災・安全対策等、危機管理体制が確立されているか。</p>	<p>・enocoの維持管理に必要な各種点検について、年間実施計画に基づいて予定通り実施している。</p> <p>・現地責任者の下、緊急体制を整えて連絡網を整備し、危機管理体制を確立している。</p>	<p>A</p>	<p>・年間実施計画に基づき、適切に各種点検等が実施されている。</p> <p>・新型コロナ対策として、文化庁の補助金を活用する</p>	<p>A</p>	<p>・事業内容に重きが置かれ活動が充実し、来館者が増加することは、より一層安全性の確保</p>	

		<p>れているか。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、適切な対応が行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、業界団体等のガイドラインを参考に、enoco 独自のガイドラインを作成し、施設利用者・来館者・イベント参加者・職員に周知徹底している。また受付カウンター等への飛散防止パネル等の設置、サーモカメラでの体温測定等ハード面での感染予防対策も行っている。 ・文化庁「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」補助金を活用し、体温測定器、消毒用品の購入等を行った。 		<p>等、利用者の安全を図るために適切に対応できている。</p>		<p>保が必要になる。指定管理者の交代時期であることから、安全を図るためのマニュアルや、避難訓練、所蔵作品の展示等にわたっての防犯対策等の面についても、より一層の検討が必要。</p>
	(6) 府施策との整合	<p>■府の実施する事業等への協力をしているか。</p> <p>■業務における福祉や環境への配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術フェスティバルとの連携「大阪府 20 世紀美術コレクションと小さき巨匠たち 展覧会をつくる展覧会」を参加プログラムとして実施。 ・大阪府新型コロナウイルス対策本部会議での決定事項や知事からの要請に基づき、休館措置への対応やその他新型コロナ感染拡大防止への協力要請に迅速に対応した。 ・大阪教育大学附属支援学校においてオンラインでの対話型鑑賞会を実施し、障がいを持つ子どもたちがコロナ禍においても美術に親しむ機会を創出している。 ・「子ども 110 番の家」への登録を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術フェスティバルとの連携について、今年度は、enoco 主催の展覧会を参加プログラムとして、申請し、広報面で連携を行った。しかしながら、当該フェスは、大阪府が実行委員会の構成団体の 1 つであり、平成 29 年度から実施されている事業として、enoco においても認知しているものであることから、府立の文化施設として、広報連携のみではなく、より積極的な内容で連携できるような企画の工夫があれば、なおよかった。 ・新型コロナに関する府からの要請については、適切に対応できていた。 ・昨年度に引き続き、大阪教育大学附属支援学校においてオンラインでの対話型鑑賞会を実施したことは、障がいの有無や物理的な距離を超えて様々な人たちに作品を楽しんでもらえる可能性が広がる取組みであり、評価できる。 	A	
II さらなるサービスの向上に関する事項	(1) 利用者満足度調査(アンケート調査)等	<p>■多様な層からのアンケート回収やモニター制度の導入などを行い、その結果について、分析及び事後の事業改善につなげているか。</p> <p>■Web フォームや QR コードなど、今までと異なった手法も取り入れたアンケートを実施しているか。また、利用が一過性にならないよう、フィードバックに努めているか。</p> <p>【目標値】</p> <p>◇企画展等作品展示に関するアンケート有効回答数：100 以上 アンケートの結果プラス評価：80%以上</p> <p>◇貸館アンケート有効回答数：50 以上 アンケートの結果プラス評価：80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーム利用者やセミナー・イベント参加者、来館者にアンケートを実施。 ・特に自由記述のコメントには注意し、適宜運営に反映している。 <p>・WEB アンケート用の QR コードを多目的ルームに掲示して、今までと異なった手法も取り入れている。</p> <p>【実績 12 月末時点】</p> <p>◇中規模以上の企画展アンケート有効回答数：75 アンケートの結果プラス評価：98%</p> <p>◇貸館アンケート有効回答数：65 アンケートの結果プラス評価：97.2%</p> <p><参考 昨年度同時期実績></p> <p>◇中規模以上の企画展アンケート有効回答数：59 (目標値：100 以上) アンケートの結果プラス評価：98.0% (目標値：80%以上)</p> <p>◇貸館アンケート有効回答数：27 (目標値：50 以上) アンケートの結果プラス評価：98.5% (目標値：80%以上)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに WEB や QR コードを使用したアンケートを実施することができた。 ・展覧会等の事業について、来場者から高評価を得たことは、所蔵作品への関心を高めることや enoco の認知度向上にもつながり、評価できる。 	A	
	(2) その他創意工夫	<p>■enoco のファンづくりに努めているか。</p> <p>■その他サービス向上に繋がる取組み、創意工夫(定性的な評価も含める)に努めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆enoco のファンづくり (ポッセ) <ul style="list-style-type: none"> ・ポッセの一部は「ぞくぞく・enoco の学校～マスターコース～」の受講生として活動を行なっている。 ・「enoco のパンパク」には卒業生も訪れ、「ぞくぞく enoco の学校」のプレゼンテーション等に参加するなど、期を超えた交流が生まれている。 ◆enoco のファンづくり (広義) <ul style="list-style-type: none"> ・一部の事業で Facebook 等の広告を活用することで、ターゲットを絞った広告掲出を行い、enoco の新たなファンづくりに努めている (再掲) ・事業を通して、繰り返し enoco に訪れる仕掛けや居場所づくりを進めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターン生が、インターン期間終了後にポッセとして引き続き enoco 事業で活躍していることや、「ぞくぞく・enoco の学校」の卒業生がポッセとして府内で活躍していることは、評価できる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自主的な広報活動や、ポッセとして若い世代がセンターの事業に参加している点について、定性的な評価が出来るのではないか。

III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項	(1) 収支計画の内容、適格性及び実現の程度	<p>■収支計画どおりに適正に事業を実施しているか。</p> <p>【目標値】 (収入) ◇貸館収入：15,132千円 ◇事業収入（カフェ・物販除く）：1,300千円 (支出) ◇事業費（カフェ・物販除く）：6,140千円 ◇広告宣伝費：2,780千円</p>	<p>・貸館収入については、目標値比較94%（9か月対比）となる。4～6月の休館期間に多目的室が利用できなかった分減収、展示室利用は3割の中止となった。enoco独自のガイドラインから利用人数を制限していることも一つの要因と考えられるが、現在の新型コロナの状況を考慮すると利用制限の緩和はまだ困難であるとする。</p> <p>・新型コロナの影響を受け、事業の中止やWeb展開への切り替え等、当初計画していたものから事業の組換えなどを行っており、それに伴う収入・支出の圧縮・調整等も行っている。</p> <p>・文化庁「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」補助金を活用し、支出の圧縮に努めた。</p> <p>【実績12月末時点】 (収入) ◇貸館収入：10,711千円 ◇事業収入（カフェ・物販除く）：1,123千円 (支出) ◇事業費（カフェ・物販除く）：3,764千円 ◇広告宣伝費：1,600千円</p> <p>【今年度（1～3月）の貸館予約状況】 (収入（予定）) ◇貸館収入：約3,300千円</p> <p style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <参考 昨年度同時期実績> (収入) ◇貸館収入：6,249千円 ◇事業収入（カフェ・物販除く）：1,400千円 (支出) ◇事業費（カフェ・物販除く）：1,454千円 ◇広告宣伝費：2,239千円 </p>	A	<p>・休館期間の影響により、貸館収入の減少があったが、休館期間中の貸館利用予定者の多くが、年度内に延期してセンターを利用することで、収入の確保はできていた。</p>	A	
	(2) 安定的な運営が可能となる人的能力	<p>■事業実施に必要な運営体制・配置になっているか。</p> <p>■従事者への管理監督体制・責任体制は妥当であるか。</p> <p>■職員研修は十分に行われているか</p>	<p>・クリエイティブ分野に豊富な実績と人脈を有する人材を引き続き館長に配置してネットワークの構築に努めると共に、多様な分野の専門性を有し、領域横断的な協働に豊富な経験を有する人材を非常勤職員として効果的に配置することで、費用対効果の高い施設運営に努めている。</p> <p>・職員研修として、消防訓練・コンプライアンス研修を実施した。今後年度内に人権研修を実施予定。</p>	A	<p>・管理面において、適切に人員を配置し、事故等がないように館管理ができていた。</p> <p>・職員に対して、適切に研修が実施されていた。</p>	A	
	(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	<p>■共同事業体の経営状況、経営規模、健全な財務状況等が確認できるか。（財務諸表により確認）</p>	<p>・共同事業体の経営状況、経営規模、財務状況は、施設運営を担う上で問題のない状況で安定している。</p>	A	<p>・安定的な運営基盤を築いている。</p>	A	<p>・提供のあった財務諸表等から、運営上の問題は発見できない。</p>

- S 計画以上に進んでいる、目標を大幅に達成している（目標値の20～30%+をめぐり）
- A 計画通りに進んでいる、目標を概ね達成している
- B 目標を達成できていない部分がある、一部改善が求められる
- C 計画がほとんど達成できていない、大幅な改善が求められる